
星空学園

零夜

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト

<http://pdfnovels.net/>

注意事項

このPDFファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にPDF化させたものです。この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのPDFファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

【小説タイトル】

星空学園

【Zコード】

N8136X

【作者名】

零夜

【あらすじ】

夜景のきれいな町、新宿、そこでの星空学園に通う。

星好きな生徒。並河 雄太。

彼は、部活の時間がなによりも好きだった。

そこにある日、新入部員がやってくる。

俺の好きな時間。（前書き）

星空学園にかよう。

一年生。並河 雄太。

彼は、星が大好きだ。

そのため。天体観測部に入っている。

季節は、一年目の冬だった。

そこに新入部員が入ってくる。

俺の好きな時間。

俺は、並河 雄太。

夜景のきれいなこの町、新宿に。星空学園、と言つ。学園があつた。俺は、その1年だ。そして、人気のある部活、天体観測部、と言うのがあつた。

俺は、その部活に入つていた。活動は、主に、夜中の12～3時ぐらいまでだ。

俺は、その時間が好きだった。そんな時、新入部員が入つてくる。雄太「新入部員……か。まあ、俺には、関係のないことだな。」

と思っていた。

部長「今日は、新入部員を紹介します」

新人部員（前書き）

新人部員?
まあ、いいか。

俺は、新人部員の登場を待っていた。

「女」

14

私は、新入部員の琴南香奈です。

「わあああ可愛い。ねえねえ。君、何歳？」
彼氏は、？

香奈
・・新入部員に質問攻め?
・・私、うるさい嫌いなの。さ

よなり

小柄なうやつ、まじかよさああさ!!!!俺は絶対にやがる

最初に会ったのが

「こんなやつで

並河 僮
並河 並河弘力

音楽の歴史

並河「あ、ああ」

俺は、手をとる。それを見た奴が・・・はあ・・・

よお！－な？－いいだろ？「

「…お断りせてもいいわ…」

は 僕は もう がめがんか

卷之三

「アーニーでアーニーでアーニーでアーニー」

並河「それじゃあ、香奈。観察するか？」

香奈「ええ。そうね・・並河。」

なうや「呼び捨てかよー! 呼び捨てかよおおおおー! あいあいあい。

うらやましいいい。これぞ

リア獣いや、並河、爆発しろ！！

並河「やけに早い復活だな・・」

そんなこんなで。新入部員が入ってきた。

新人部員（後書き）

新人部員が入ってきた
天体観測部。なにかと並河に絡んでくる進入部員。
そして . . もてない若干一人。
なうや「俺かよっ！！」
作者「お前以外誰だよ！」
なうや「ありえないよ！俺の設定、ひどすぎたよ！...」
と言つ分けで次回 www
なうや「無視かよおおおおおお
作者「うるさいですね」
「ゴチン！！」
なうや「いたいよお～あたまがあああ～」
「

小林の古い友達？（前書き）

小林に女？どういつ事だ？
まあいいか。

小林の古い友達？

俺は、知り合った。琴南と結構、中は、よくなつた。
一方・・・あのなつやだが；

小林「あああああ！！俺も彼女ほしいいい！！！」

雄太「お前には、・・・無理に近い。」

香奈「見苦しい・・・」

と、そのとき。

「暇そудан！私をほつといて、よくそんなに平氣だよね！！な

うや

なつや「お前、誰だつけ？」

「雪原 風嘉。おぼえてない？」

なうや「ああ、あの。天才不思議少女で。人を殴り魔の。面倒だと

クラスから

煙たがられていた悲しき少女様ですか？」

風嘉「最後の殴り魔は、余計だと思うんだけどどうなのかな？ねえ
？」

なつや「もんだけねえだろ」

風嘉「なーうー やー！！」

なうや「うわあ！！殺生なさらないで！！命は、お助けをーーー！」

風嘉「までえええ！！」

雄太「あいつら・・・中良じみたいだな・・・」

香奈「そうね・・・」

すると部長が言い出す

部長「はいはい。みんな。明日は、部員旅行ですね。行き先は、紙

浪市 岬町の。旅館。

スターイン リガイガーデンです。」

香奈「あそこは、、確か。一番高い旅館だと・・お聞きしましたが。

部長「大丈夫ですか。一番高い部屋を用意いたしましたので……持ち物の説明しますね。お金は、制限無し。その他は、自分の好きな物を持っておくと喜ぶ」とです」

風嘉「わあーい……あの旅館。雰囲気すばらしいらしいよ……」
なつや「で？ なんで。たまたま。ぎりぎりすれすれです。ここに合格できたお前が

天体観測部に？」

風嘉「なつやに会つたために決まつてゐるんだよ……」
なつや「えやああああ……」

部長「部屋割りは、男女相部屋と言つ事だそうです。雄太君と香奈さん108号」

部員「おこおいまじかよ……いいなあ～あんな可憐い奴と相部屋なんて。なあ？ なうや？」

なつや「そうだな……夜中にこつこつ抜きで行つていい？」

風嘉「なによ……私と相部屋がいやみたいに言つてから、ひどいんだよ……」

なつや「ちなみに。俺の部屋は、？」

部長「なつや君 風嘉さんペアです」

風嘉「はうううう……わあーいなつやあ～なつやあ～。夜中は、眠れないよ？」

なつや「絶望的だ……」

部長「明日の4時に集合。バス。と書つ流れで行きますので。遅れないでくださいよ？」

片方が遅れたペアは、留守番ですよ。」
なつや「本当ですか……」

なつやの田は、なぜかキラキラ輝いていた。まるで。星たちのよう」。

部長「本当です」

なつや「今、一瞬。部長が神に見えた。じゃあわりいあすは……」

て。なんだそのすべてを見通す田のやつな。俺に向ける鋭い視線は、？」

風嘉「もしかして。遅刻しようつなんて。思っていないよね？電話かけて。「『めん今日、調子悪』にわ

つて、言つて仮病使おうとかしてないよね？」

なつや「うひ・・・お察しのとおりで『ござえます。』

風嘉「・・・なつや。今日、なつやの家、泊まるね。あ、もしもし。なつや君のお母さんですか？」

私、風嘉です「まあ、久しぶりね」今日なんですが。とめてくれませんか？

なつやが明日起きれなつなので「いいの？あんな子のため」「良いんです。

「やつ？じゃあ、跡で向かいに行くわね。じゃあね」バイバイ一ピフ

なつや「お、おまえええ勝手に親をつかつて、適当な理屈で口実立てんなあああ！」

風嘉「だつて、悪魔でも起しすためだから。」

なつや「もはや、何も言えまい。ああーー！わかつたよーー。」

風嘉「わあい

雄太「本当、なかいいな」

そのとき、後ろから声をかけられた
香奈だった

香奈「あの・・・

雄太「なんだ？」

香奈「私ももう少し。雄太と話してみたいし・・・いい？」

雄太「わかつた。」

と言つた瞬間、部員達となつやのあつーべ。つめたーべ。すねぐまおこ。

視線を感じていた；おお「わこわこわこわこ」

そんなこんなで。大体部活は、終了。

それぞれの家に帰つた。

小林の古い友達？（後書き）

そんなこんなで。無断外泊が始まるのでした。
次回、無断外泊。

無断外泊。並河雄太編。（前書き）

そんなこんなで。無断外泊がはじまった。
なぜだかドキドキする。

無断外泊。並河雄太編。

並河「ここ……俺の家」
琴南「おじやまします」
どうすればいいんだ?
会話がないと飽きられてしまうな……
並河「なにか飲む?」
琴南「ええ……」
並河「アツブルティ……好きか?」
琴南「ありがとう」
並河「あの……まだ。入れないんだけど……」
琴南「ごめんなさい……」
並河「あ、ああ……」
こんな感じで大丈夫なのだろうか……
俺は、ものすごく先が心配だった。
「ぐう~」
並河「琴南……」
琴南「お腹……すいた。」
並河「わかつた。なんか作るよ。」
そう言って俺が作つたのは、
得意のシチューだった。
並河「できた。」
琴南「いただきます。」
琴南「はむ……」
並河「ど、どうだ?」
琴南「おいしい……」
並河「ありがとう。」
並河「風呂……先に入れよ」
琴南「でも……」

並河「せつかくだし。入れよ」

琴南「わかつた。」

俺は、琴南の風呂の帰りを待ちながら思つ。

旅館で同じ部屋だったな・・大丈夫か?俺。そもそもなんで俺は、琴南の事がこんなに気になるんだ?

て?」

いやいや、俺は、別にそんな中になろうなんて望んでもいないし。

そうこう考へてる間に琴南が帰つてくる。

琴南「並河君?」

並河「あ・・ああ・その。おかげり。」

琴南「?」

並河「だから、その」

琴南「えつ?」

並河「いや。なんでもない。じゃあ俺、風呂入つてくれる・・・」

「ガラガラガラ。バシャン!-!」

俺は、即行風呂につかる。

そして、出て。消灯の準備に入る。

並河「おつと。」

琴南「うわきや!-!」

並河「琴南大丈夫か?」

琴南「あの・・その。」

俺は、押し倒したような格好になつてしまつ。

だがここは、冷静にいくべきだ!-!

並河「ああ、悪いな」

琴南「いえ・・私は、別に。」

並河「電気・・消す。」

琴南「う、うん。」

「力チツ」

並河「.」

琴南「.」

琴南は、すぐとなりで寝ている。
そして、この空気。

「気ますすぎる。」

琴南「並河君」

並河「琴南」

二人同時に名前を呼んでしまつお

並河あ . . .」

琴南「は。」

並河「眠れ . . . ないのか?」

琴南「ええ。」^{うつ}の初めて . . .」

並河「あのーさ。」

琴南「何?」

並河「町。見に行かないか?夜景。結構きれいだ」

琴南「行きましょうか。」

俺と琴南は、外に出る。

琴南「きれい . . .」

並河「ああ、今の時間は、人も少ないしな . . .」

琴南「そうなの?」

並河「ああ、普段は、にぎわう。うるさいくらいに、
けど、夜中は、静かな町だ。」

琴南「私 . . . 好き . . .」

並河「えつ . . . ?」

琴南「静かなところが好き。」

並河「あ、ああ。なるほどな」

並河「さて . . . 服でも買いに行くか?」

琴南「お金は、?」

並河「持つてきた。」

俺たちは、楽しんだあと。

家に帰り。また布団に転がる。

琴南「並河君 . .

並河「なんだ？」

琴南「いい旅行にしようつね」

並河「ああ。」

いま。小林は、何をしてるんだか。俺は、『氣にしながら
眠つた。

無断外泊。並河雄太編。（後書き）

氣まずい空氣をなんとか切り抜けた
並河。

小林たちの無断外泊は、どうなっているんだろう？

PDF小説ネット発足にあたって

PDF小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は2007年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になろうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連＝横書きという考えが定着しようとっています。そんな中、誰もが簡単にPDF形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのPDF小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能してください。

この小説の詳細については以下のURLをご覧ください。
<http://ncode.syosetu.com/n8136x/>

星空学園

2011年11月6日10時11分発行